

■宇田川玄随 蘭学者。オランダ内科医書翻訳の嚆矢「西説内科撰要」を出版，研究の普及発展を促進する記念碑に。

うだがわけんずい
自然真菅道・1755＝

宇田川家は戦国期，武蔵国品川城主だったといい，後裔の宇田川玄仲が足立郡淵江領小台の村医を開業した。それから3代目玄随(道紀)が，作州津山藩医に召され，鍛冶橋の江戸藩邸に住んでまもなく，道紀の子として生まれた。

大岡忠光没・1760＝ 5歳：父が死去したため，一旦叔父玄叔に家督を渡し，

加賀千代句集1764＝ 9歳：

田沼意次老中1772＝17歳：
大原騒動・・・1773＝18歳：

玄叔の娘と結婚し，

源内獄中死・1779＝24歳：桂川甫周の席に参加，蘭学が目覚めて転向し，桂川甫周・大槻玄沢・杉田玄白らにオランダ語や医術を学ぶ。

・・・・・・1781＝26歳：玄叔死去後，家督を継承。

天明大飢饉始1782＝27歳：

儒学で聞こえ，藩侯の若君に素読を教えたこともある。儒医として仕えたが，おとなしい性格で，東海夫人と呼ばれた。外科中心の蘭方の中で内科を志向，

田沼意次失脚1786＝31歳：

甫周に勧められて，ゴルデルー著「簡明内科書」を十年近くかけて訳述し，

混浴禁止・・・1791＝36歳：

松平定信引退1793＝38歳：*「西説内科撰要」18巻の刊行開始，本邦内科書の嚆矢で，皮膚，泌尿器，眼，精神，産婦人科に及び，玄随による注解も多数付載されている。

オランダ 正月・1794＝39歳：江戸参府のオランダカピタンに随行してきたオランダ医師に，玄白・良沢らとともに質疑し，

*さらに「東西病考」20巻の刊行を期したが，果たせず，

昌平饗始・・・1797＝42歳：

没した。
没後15年でようやく「西説内科撰要」全巻出版となった。著書には「遠西草木略」「西洋医言」「西文矩」「蘭畝淑載」「蘭訳弁毫」など未刊のものがある。